

株式会社アトス・インターナショナル
株式会社アトス・ブロードキャスティング
番組審議委員会 議事録

1. 日時：2023年7月6日(木) 15:40～16:25

2. 場所：株式会社アトス・インターナショナル本社 会議室(オンライン形式)

3. 出席者：

○番組審議委員(敬称略)

番組審議委員長 齋藤 純一(株式会社IPG ネットワーク 監査役)

番組審議委員 五十嵐 弘之(日本コロムビア株式会社 取締役 CFO、株式会社ドリーミュージック
取締役)

番組審議委員 谷口 元(株式会社東京谷口総研 代表取締役社長)

番組審議委員 佐藤 毅(ゼフロユナイテッド株式会社 代表取締役社長)

番組審議委員 松山 梢(映画ライター)

番組審議委員 山崎 哲央(元株式会社テレビ神奈川プロデューサー、元株式会社 tvk コミュニケーシ
ョンズ取締役、元関内ホール館長)

番組審議委員 望月 秀城(株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント 経営企画グループ
シニア アドバイザー)

番組審議委員 田中 良典(一般財団法人ヤマハ音楽振興会 事業企画開発部 普及企画グループ
シニアパートナー) (書面参加)

○番組供給者

株式会社アトス・インターナショナル

堀口 昭典(代表取締役社長)

城水 千明(代表取締役)

原田 真紀子(取締役)

井上 靖(執行役員)

株式会社アトス・ブロードキャスティング

二階堂 敬(執行役員 営業統括)

4. 審議事項

① ミュージック・グラフィティ TV

〈チャンネルの状況、編成内容〉

この1年間の総括ということで、昨年の9月24日に初放送しました「ホンダ：シビック 50周年編」という番組をピックアップして紹介する。

ホンダのシビックが発売されて50周年ということで、ウェルカムプラザ青山にて開催された新シビッ

クの記念展示会を取材。展示されているシビック、また本田技研工業株式会社が所有している資料映像等シビックが発売された年から今に至るまでのCMソング、社会的な状況を織り交ぜて編成した番組。

シビックというと、国民車と言ってもいいぐらい人気のあった車種で、皆さんも乗っていた乗っていなかったかは別にして、それぞれの歩みの中で、懐かしく番組をご覧いただいたのではないかと考えており、グラフィティTVらしい番組としてご紹介をさせていただいた。

チャンネル基本情報としては、放送開始が2002年の7月、スカパー・プレミアム、スカパー・プレミアムサービス光で放送しているチャンネル(645チャンネル)。有料視聴料600円。

②地方競馬ナイン

〈チャンネルの状況、編成内容〉

北は北海道を主催とする北海道競馬から南は九州佐賀県を主催者とする佐賀競馬まで、全国9カ所それぞれの競馬場の実況中継と共に北海道、ばんえい、名古屋、園田、姫路に関してはレースダイジェストを放送。

さらに、名古屋競馬と園田、姫路競馬では展望番組も放送。

その他レースだけではなく、競馬に関連した番組として、佐賀競馬が現在の場所に移転して開設50周年というメモリアルの年に佐賀競馬と共同で深堀りインタビュー全6編の番組を制作。

年間トピックスとしては、2022年の12月21日から1月5日までは地方競馬プレミアムウィークとして、その期間に準拠する形で、地方競馬ナイン3チャンネルでは、無料放送を実施。

年末年始でJRAの開催がない期間に、特に地方競馬は大々的なPRを行っており、それに合わせて弊社もグリーンチャンネルを視聴してる方が、(地方競馬ナインの)契約がなくてもご視聴できるように無料放送期間を設けている。

1年間で延べ946日の開催を放送、対前年度に比べると、49日増と過去最高の放送日数を記録。当該競馬場の全開催日に対して放送した割合が90.2%と過去最高を更新した。

チャンネルの基本状況としては、プラットフォームとしてひかりTVが新たに加わり、775チャンネルで放送。スカパー701チャンネルのサイマル放送という内容になっており、月額の有料放送の視聴料金は昨年4月に200円値上げし、現在は700円。スカパー、ひかりTVとも同額。

③ミュージック・ジャパンTV

〈チャンネルの状況、編成内容〉

チャンネル全体の編成方針としては、従来通りヒットソング120%を主軸に、J-POP、K-POP、アニソン、アイドル系を中心に編成。ターゲット層としては、女性10代から50代、男性が30代から50代がメインとなっている。

トピックスの1つ目としては、J-POP、K-POPともにダンス・ボーカルグループ、ボーイズグループの特集番組が毎回人気で、番組告知の開始タイミングでのSNSによる拡散や反響も大きい状況。

親和性のあるグループを継続的に編成することで、視聴者の満足度も高く番組アンケートへの意見として、「いつも誰々の曲をたくさん応援してくれてありがとうございます。」という内容のものが多く見られる。

2つ目はオリジナルインタビュー番組で、今期最も反応が大きかったのは「和楽器バンドスペシャル」。放送の本編はもちろん、YouTubeの見どころ動画に関しても反響があり、中には海外に住んでいる日本人ファ

ンの方からのコメントなども見られた。

「他局の音楽番組とは違った切り口での貴重なインタビューで見応えがあった。」というご意見を頂戴し、またこの番組をきっかけに興味を持ってファンになりましたという方もいらっしゃった。和楽器バンドスペシャルに関しては、8月にも新たに特番を編成予定。

3つ目として、新番組エムプラスという番組を2023年3月より放送開始。このシリーズは、ミュージック・ジャパンTVに加え、ミュージック・エアでも放送しており、Musicにプラスし、様々な角度でアーティストの魅力を掘り下げるというコンセプトでお届けしている番組。

デビュー間もないアーティストも取り上げることで、ファンの方と一緒に応援していくという点も意識した企画内容となっている。

また、110度(スカパー!)での展開ということもあり、より多くの方が視聴可能な環境ということで、新しい顧客の取り込みも視野に、今後も編成を予定している。

④寄席チャンネル

〈チャンネルの状況、編成内容〉

2022年度も寄席チャンネルは、トラディショナルな寄席演芸と現在の時流に即した高座の両面を取り上げる方針を継続。

概況としては、放送では全国のケーブルテレビ局の主要な3大ネットワークで導入局が増えていることをはじめとして、それ以外にも特定の時間帯だけを選択する部分導入といった形やサブスクリプション型でケーブル局への番組供給が非常に好調。

配信の面では、Amazonプライムビデオチャンネルは引き続き堅調な伸びを示しており、楽天が運営しているRチャンネルが最近スマホアプリでの展開も開始したことで、ユーザーがより接触しやすくなり今後の視聴者数の拡大には期待できると考えている。

編成面では各演者の一般的な認知度という面を、より内部で精査して編成の割合に反映していくことに取り組んできた。

具体的には編成を決定する際、一般的な認知度を意識した上で、次のようにコンテンツを分類。

(1) 落語会で人気・実力ともに特急クラス

- ・柳家さん喬、その一門の柳家喬太郎、柳家権太郎、柳家花緑
- ・NHKの番組出演でよく知られている古今亭志ん輔、古今亭菊之丞

(2) 落語の枠を超えて広く認知

- ・桂米助・笑福亭鶴光・桂雀々・桂文治ら

(3) 話題性のある演者

例としては、

- ・役者の落語界：コント赤信号 小宮孝泰・欽どん 山口良一・横浜銀蠅 翔
- ・3肥良乱ショー；林家きく麿、三遊亭歌武蔵、春風亭一蔵
- ・若手の特：人気漫画監修、二世落語家の会など
- ・異種芸能のコラボ：講談と乙女文楽、浮世節(三味線弾き語り)と玉すだれなど

(4) 講談・浪曲・漫才

一般的な認知度に関して、情報共有し内部での認識統一を図りながら(1)(2)の編成に周期性をもたせたことで、(3)がチャンネルの特長あるコンテンツとして生きてきた。

今後の取り組みとしては、定期的な恒例の落語会やお笑いイベント、コンペティションに公式の放送局としての参画や、連続シリーズ企画に注力。

以上

